

# ホリホリの旅の繪日記

堀道広 文・絵  
Hori Michihiro

vol.014

## 引っ越した山崎潤くん(仮名)に 本場宮崎のチキン南蛮を

世界で唯一、イースター島の正式許可を得て完全複製されたモアイ像。この広場(モアイ広場)もイースター島をイメージして造られてるそうだ。とにかくモアイはどういうわけか、ここに居る。



青島の「鬼の洗濯板」と呼ぶれる珍しい波状岩。岩をよく見ると、「イルカ」っぽい質感で不思議な気持ち。



「とんかつ大戻」のチキン南蛮膳。本場のチキン南蛮は、甘くてジューシーだった。「この食べ物はもとメジマーになつてもいい」と思ったが、すでにメジャーで「モアイと私」という写真を撮りたがったが、一人旅だったので撮れず。イラストだけでも。

宮崎といえば保育園の友達で、引っ越して下っ端で子分肌だった私は、ガキ大将の潤くんの従順なしもべだった。というか、組のほとんどの園児が、潤くんの手下ランキンングの順位を競い合い、いかに潤くんに気に入られるかを第一にしていた気がする。あれは、何だつたのだろう。そんなカリスマ潤くんが、小二の時、引っ越すことになった。実家の富山から、宮崎というどこにあるかも知らない所に行ってしまう。子供心に「外国のようない遠い場所」ということだけはわかつた。

あれから数十年、自分はその宮崎に一人旅に来て、サンメッセ日南の七体のモアイ像の前に立っている。モアイはいろんな経緯があつてそこに存在し、イースター島まで行かなくても宮崎で見られる。素晴らしいことだ。

空も青い。私も素晴らしいし、モアイも素晴らしい。そんなポジティブな気持ちになれる。初めて食べる本場のチキン南蛮は、甘くてジューシーで美味しかった。これはもつと全般的に普及して、かつ丼くらいにメジャーなポジションにいても良いのではないか。

潤くん元気かな」と宮崎で思った。



ほりみちひろ ● 1975年、富山県生まれ。うるし漫画家。98年「月刊漫画ガロ」でデビュー。漆職人の経験を生かし、金継ぎも手がける。最新刊は『おうちでできるおおらか金継ぎ』(実業之日本社)。